

平成29年度 自己評価・学校関係者評価結果公表シート

学校法人 下福島学園 下福島幼稚園

1. 本園の教育目標

快適で安全な教育環境を保障し、幼児の心身の育ちを大切に考えながら、遊びを中心とした教育内容の充実と実践を目指している。また、幼児が幼稚園という集団生活の場で友達と充分に遊ぶことにより、自他の存在に気づき、道徳性・社会性・創造力・助け合いの心と自立する心を身につけて、生きる喜びを味わい、生きる力を培っていけるように配慮する。日常保育の中では基本的に、よくみる・よくきく・よく考える・よく手足を動かすことを徹底し、明るくよく遊ぶ子・興味を持ち集中出来る子・絵本の大好きな子・優しく助け合う子の育成をすることを教育目標とする。

2. 平成29年度 重点的に取り組む目標と計画

平成29年度に取り上げるべき研究テーマを「幼稚園新教育要領の理解」と「新制度の研究」とした。本年度実施される研修を精査して一人でも多くの教職員が参加する機会を持ち、重点的に幼稚園教育要領をしっかりと理解した上で、教職員間で情報の共有と意見交換を行いながら、教育理念のもとに実践してきた当園の教育と保育の整合性を検証することを目標に掲げ、討議を重ね、他の教職員の研修レポート等を互いに読み込んで、次年度からの実践に備えることを目指すこととした。また、新制度移行についても当園とは関係なしとせず、情報収集には努力し、何処が改善されて、移行の接点はあるのかを探りながら、また、園児と保護者の求める物が何なのかも丁寧に説明と聞き取りを行った上で、法人役員会に報告をし、次年度に向けての最終判断をすることとした。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
新幼稚園教育要領の理解と教育理念・教育課程を踏まえた教育実践がなされているかの評価を行う。	新学期早々から大阪府が実施する幼児教育アドバイザー養成研修会や特別支援コーディネーター養成講座にも園長自らも積極的に参加し、他の教職員も平成29年度に実施される新幼稚園教育要領改訂の理解をする講座や研修会に参加した。研修会参加後にはレポート作成と提出の義務付けにより、未参加の教職員にも研修内容について回覧をしたり、或いは園内研修としても取り上げて、互いに意見交換をすることによって理解が進んだ。更にこれまで当園が掲げる教育理念と教育課程が新幼稚園教育要領とどの様に関係づけられるのかを精査したところ、幼児が卒園までに身に付けることが望ましいとされる10の姿と小学校との接続についても、日々の教育実践に盛り込まれていることで、大きなズレや修正の必要性もなく、次年度からも振り返りを怠らず、当園が目指す教育が新幼稚園教育要領の実践と合致していることを認識して、指導計画を立案し、より良い指導援助をめざすことで教職員も共通理解に繋がった。一人ひとりの成長発達の道筋を認識し、個々に応じた援助と指導を行うことを再確認し、最終的に望ましい成長が遂げられるよう全教職員が園児・保護者についての情報を共有しながら、丁寧な関わりと学びの更新をしていくことで教育の質の向上をめざし、目標の達成と適切な評価を行うことで教育の連続性を目指すことの確認がなされた。
新制度の理解と移行について協議検討する。	平成27年度からの新制度も3年目となり、当園でも移行することが園児・保護者・教職員にとって最良となるのかを検証した。 当園が掲げる教育理念が最大限にいかされる制度であるのかを検証し、判断することとした。待機児童問題の解消と女性の就労問題が優先され、益々子どもが置き去りになり、子育ての外注化が進んでいる状況で、当園でも預かり保育参加する園児が増加傾向になっている現状と制度そのも

	<p>のの見直しや事務量の改善がはかられていない中では、現状でも教職員の勤務課題があることから、新制度の移行は大変難しい問題である。子どもがまんまになる、教職員にとっても目指す教育が実践できる、保護者にとっても子育ての楽しさや喜びを味わえる新制度であれば、移行についての躊躇はないが、次年度も改善がなければ困難であるとの判断がなされた。</p>
--	--

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>幼稚園は、園児・保護者・教職員の三者が繋がりがあって学校教育を行う場であることを踏まえ、常に幼児の成長発達が順調に遂げられるような教育展開を目指す。よって保護者と教職員は絶えず幼児と共にあることを念頭に置き、幼児に寄り添う援助と指導がどうあるべきかを討議する為に、幼児に関する情報を共有しながらも最適な教育環境の充実をはかると共に、保護者も教職員も自らも学び合っていく存在であることを意識していかなければならない。家庭教育と幼稚園教育の密接な連携があつてこそ、子どもの安定的な成長が見込まれることを認識し、互いの信頼関係の構築に努める為に、幼稚園としては、保護者に日頃の教育活動と園生活をしている子ども達の様子を正しく理解してもらう場の設定をする必要がある。また、地域との関係性も重視し、地域の中での家庭と幼稚園はどの様に関わって幼児を健全に育成していくかを考えて、地域役員との連絡や連携を模索して、幼児も社会の一員であることの認識を育て、またその幼児の存在を認めてもらう仕掛けを考えていかなければならない。そこで、地域の高齢者との交流会・地域住民によつて園児への絵本の読み聞かせを年間行事の中に組み入れ、指導計画案に位置付けていくことで、効果が上がっている。また、幼児にとって小学生や中学生との交流によって、あこがれや羨望から将来の自分像を描いていきつつあつくりを継続することが大切である。毎年のように繰り返されている相互的な教育展開ではあるが、平成29年度も幼児と社会との関係性から、人と人との繋がりが良好な心身の良好な発達へのぞめた。今後も振り返りをしながら、次なる課題が何なのかを考え、より良い幼児への関わりを考えることとする。</p>

5. 今後（平成30年度）取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
<p>新幼稚園教育要領の理解と園児の心身の現況を踏まえて、保護者と共に望ましい成長発達を考える。</p>	<p>新幼稚園教育要領については、保護者にも内容と当園が取り組むべき課題や実践についての説明をしつつ、教職員は次年度も研修会参加をしながら、時には園内研修にて情報と実践についての共通理解と確認及び振り返りをして、指導計画と指導援助を行っていくものとする。本園は創立以来、私立幼稚園でも公教育を担い、地域の要望によって成り立ち、質の高い教育実践を行っていることが、評価されてきた。その評価の一番は、徒歩通園で園児全員が始業・降園時間を同じにして教育・保育を受けることをよって、園児全員が公平平等に指導と援助受け、豊かな人格に育ち、卒園後は社会になくなくてはならない社会人として活躍している。そのことが大きく評価され、当園の教育理念と方針が間違いないものとして保護者や地域に高く評価されて、当園への入園を希望していることを念頭において、教職員も使命感と誇りを持ち、保護者との良好な関係性を築き継続して、幼稚園と家庭、そして地域が一体になって園児が心身ともに豊かに成長発達できる環境設定に努力することが当面の課題である。</p>
<p>子ども・子育て支援の新しい取り組みについての理解。</p>	<p>平成27年度から子ども・子育ての新制度がスタートし、3年目となった。いよいよ本制度についての最終判断をする時期となり、3年間の本制度の検証がなされているのか、どの様に改善がなされているのか。相変わらず事務量の多さと目前の待機児童問題の解消と女性の就労を促しながら女性が家事・育児・仕事をしつつ快適に就労する事や子どもに負担をかけることなく子どもの思いに寄り添った支援には程遠い状態では、やはり当園としても移行に向けての櫂をきれない。保護者も法人役員会も納得のいく状況が見いだせないことから、当園が目指す子ど</p>

	<p>もを真ん中にした幼児教育を掲げた時、新制度に移行すれば一時的に経営面や教員に対しても今より格段の処遇改善が可能になるかも知れないが、創立以来地域に根差し、当園の幼児教育に対する信頼を損ねる事にもなりかねない。これまで同様に研修にも積極的に参加し情報収集に努めるが、ここにきて経営優先策でなく、経営の安定化に知恵をしばり努力をしつつ幼児教育に対するの本質を見逃さないよう、法人役員会で議案に挙げ、園児・保護者・教職員・幼稚園にとって最良の選択をして、平成30年度の判断をし、保護者への説明会においても当園の方針に理解を求めることとする。</p>
--	--

6. 学校関係者の評価

<p>学校関係者からは、毎年のことながら教職員の幼児教育に対する真摯な態度を保護者全般が高く評価していると伝えられた。本年度も教育の質の向上を目指して研鑽を積み、それを直ぐに日々の教育展開にいかしているという見方が大半で、年間の指導計画が綿密で園児の動きや成長をしっかり見極めた活動がなされ、大いに感謝していると行事毎にも声が寄せられたとも報告された。年度初めの家庭訪問に始まり、毎日の登降園時に保護者と教職員のコミュニケーションと連携がとれているから教育効果が上がっているのではないかとの見方が寄せられた。学期毎の懇談会や保育参加及び学期ごとの保育の自己点検報告を重視し、丁寧に保護者に説明することによって幼稚園の取り組みやあり方が伝わっているから、好評価が得られている。この整った仕組みが今後も展開され、教育の持続性を期待するとの声も聞かれた。</p>
--

7. 財務状況

<p>平成29年度の財務状況は、大規模修繕工事や土地収用等の大きな支出がなく、公認会計士監査からは、証憑伝票等の会計書類が適正に処理されているとの評価を受け、財務状況を学園役員会に報告した。経費節約に努め、借入金をしなかったことが安定経営に繋がっているとの説明を踏まえて評価された。</p>
